

## 1 学校教育目標

本校の校訓「進取」「勤労」「礼節」の精神のもと、人権尊重の精神をすべての教育の基底におき、校長を中心とした指導体制のもと、生徒一人ひとりの教育的ニーズや学校評価等による課題の把握に努め、学校間及び学校と家庭・地域社会の連携を図るとともに、創意・工夫を生かした特色ある教育を展開し、生涯学習社会を展望して「生きる力」の育成を目指す。

## 2 本年度の重点目標

学校目標スローガン

「プレイヤーズファースト」全ての生徒が輝く、心身の健全な発育にもとづく確かな学力と豊かな心の育成

「目指せ君の・われらのNo. 1 夢の実現 ～やる気、本気、元気、勇気～」

- |             |               |             |
|-------------|---------------|-------------|
| 1 進路指導の充実   | 2 中途退学者数の減少   | 3 特色ある学校づくり |
| 4 関係諸機関との連携 | 5 広報活動のさらなる充実 | 6 凡事徹底      |

### 3 自己評価総括表

| 評価項目         |                  | 評価の観点                | 具体的目標                                   | 具体的方策                                                     | 評価 | 成果と課題                                                                               |
|--------------|------------------|----------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 大項目          | 小項目              |                      |                                         |                                                           |    |                                                                                     |
| 学校経営         | 目標管理             | 学校目標の周知              | 生徒及び保護者の学校教育スローガン・重点目標認知度90%を達成する。      | 育友会総会や学年集会、教室掲示、育友会新聞及びホームページで周知を徹底。                      | C  | 認知度は、生徒79%、保護者84%と昨年までと同じ程度であった。具体的方策の見直しが必要である。                                    |
|              | 生徒募集             | 募集定員の確保              | 全ての学科において定員の80%以上の生徒確保、入学生、170人以上を達成する。 | 新校・各学科の魅力を発信、定期的な中学校訪問、在学生生徒による充実した学校生活のPRを实践。「南稜はいいぞ」の展開 | A  | 前期選抜の受検者は、166人と昨年より大幅に増加した。後期に向けさらにPR活動を実践したい。「学校生活が楽しい」と感じている生徒が95%と多く「南稜はいいぞ」が定着。 |
| 学力向上         | 授業改善             | わかる授業の实践             | 生徒の90%が「授業が理解できた」とする「わかる授業」の推進。         | 公開授業週間や授業研さんの機会を通じ、各教科・学科授業方法や評価規準に関する研修を行い、授業反省を重ねる。     | C  | 「授業が理解できた」とする生徒が84%。本年度は授業における「南稜スタンダード」を作成したが、その周知と定着を次年度の課題としていきたい。               |
|              | 学習習慣             | 欠席防止                 | 8クラスで年間出席率99.0%以上を達成する。                 | 担任から欠席生徒への連絡や家庭訪問を早期に行い、各部署と情報共有しながら連携して登校支援を徹底する。        | C  | 3クラスが達成。各部署との情報共有を図っての登校支援を更に徹底していき、遅刻・欠席しない雰囲気づくりと長欠者への継続した対応が今後の課題。               |
| キャリア教育（進路指導） | 進学・就職支援          | 生徒進路目標の達成            | 進学・就職ともに進路目標100%を達成する。                  | 計画的に組み立て、全学年で個別面談を実施。進学課外や面接対策を充実させる。                     | A  | 進学後に必要な学力の確保が課題。就職希望者も全員が内定先を確保し、課題は早期離職対策である。                                      |
|              | 企業訪問             | 求人企業の開拓              | 県内外100社の事業所を訪問する。                       | 3学年部と連携した企業訪問を実施。卒業生の定着指導とあわせて求人を開拓する。                    | A  | 目標件数を達成し求人数を確保した。あわせて定着指導もでき、成果をあげた。求人数に対して応募数が大きく下回り、未充足事業所に迷惑をかけた。                |
| 生徒指導         | 遅刻指導             | 遅刻生徒の減少              | 一日の遅刻者数を10人以下にする。                       | 遅刻届等を用いて、多くの職員が遅刻する生徒と関わりを持ち、声かけを行うことで学校生活に適應させる。         | B  | 遅刻届等の手続きは生徒へ定着してきた。また、遅刻指導で声かけを行ったが、一日平均8.46人だった。来年度は5人以下を目指し課題を検討したい。              |
|              | 自尊感情             | 自己・他者肯定感向上           | 「自分が好き」と答える生徒数が前回調査よりも向上する。             | 特別活動の充実に取り組み、生徒会活動・学校行事・部活動等、生徒が活躍できる場を多く設定する。            | C  | 学校行事では生徒会と共に生徒へアンケートをとって企画運営した。部活動では部員不足で活動が難しい部が増えた。                               |
| 人権教育の推進      | 人権教育・適応指導        | 中途退学の防止              | 進路変更者を10人以下にする。                         | 中高連携等適応指導の充実、週1回生徒支援会議実施と就学支援体制の充実。人権教育LHR・講演会実施。         | A  | 遅刻・欠席等課題を抱えた生徒に対して、スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの活用など就学支援の取組みを行った。現在進路変更者は7人である。         |
|              | 特別支援教育の充実        | 個別の支援計画と指導計画の作成と引き継ぎ | 診断がある生徒の個別的教育支援計画、指導計画の作成率100%を達成する。    | 担任、コーディネーターを中心に個別的教育支援計画、指導計画の作成。年度末には評価と成果を書き加え次年度に引き継ぐ。 | B  | 個別的教育支援計画、指導計画を担任・コーディネーターを中心に全員作成できた。評価と成果の書き加えは年度末までに終了予定である。                     |
| いじめの防止       | 「命を大切にできる心」を育む教育 | 命の教育・いじめ問題の防止と解決     | 「心のアンケート」の結果70%以上の項目で生徒の意識高揚を図る。        | 「命を大切にできる心」を育むプログラムユニットの実施。<br>週1回の情報交換会の                 | B  | 就学支援の生徒支援会議を行い、情報交換及び対応を行ってきた。「心のアンケート」の結果は6月実施と1月実施を比較                             |



- ・SPHの取組により、十分特色のある学校作りができています。
  - ・SPH事業をもっと分かりやすく、アピールした方がよいと思う。
  - ・SPHの取組で外部からの学校の評価が高くなった。新校でも今以上のがんばりに期待している。
  - ・SPH事業の取組を周知徹底するためには、生徒及び保護者、地域住民に分かりやすい説明資料が必要。
  - ・同事業の充実を図るための取組として、社会人（地域住民）の聴講制度を導入できないか。
  - ・SPHの取組で、先生たちのエネルギーが保護者にも伝わるとまた、いろいろ話ができるのではないかと、学校のためにもなると感じた。
  - ・地域の特性を生かした取組を今後もお願いしたい。
  - ・九州で3校目、県内では初の指定校であり、幅広くPRしていけば、生徒にも本気や元気、やる気が大きくなると思う。
  - ・SPHの取組も含め、農業、体育、福祉を学び学校の延長として、球磨人吉に大手の企業や会社が出来、10年後、20年後には、南稜高校を卒業した子供たちが100%地元で仕事ができる日が来ればいいなと思った。
- ク その他の事項
- ・日頃、会議等で学校にきているが、対応等がすごくよく大変感謝している。
  - ・先生方からの説明が、データやいろんな角度やパターンを用いてとても分かりやすかった。
  - ・昨年との比較だけでなく、2、3年前との比較もほしかった。

## 5 総合評価

本年度は、「新校開設における生徒募集について」―特色ある教育活動の取組みと広報活動の展開―をテーマに、それぞれの分掌で目標を設定して取り組んできた。その結果、前期試験で100人の合格者、また、後期試験で78人の受検者があり、目標の170人を越える生徒が入学予定である。特に、開校準備室を中心とした中学生や保護者への説明会でアピールができたこと、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究指定を受けて本校の学習内容が地域へ広がり、関心と期待を得た結果である。また、ホームページも本校の生徒の活動状況等、随時アップできるように工夫した結果、アクセス数も多いときは1日2000件を超えるなど本校の学習活動をPRできた。さらに、心のアンケートでは、18項目中、12項目で90%以上の良い評価であった。特に、学校生活が楽しいと答えた生徒が95.9%と高い割合を占め、充実した学校生活が「南稜はいいぞ」を生徒たち自身が発信してくれたものと考えられる。また、進路指導では、求人数も地元企業を中心に増加、県内（管内を含む）への就職が40%を超え、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究の目標の一つ「地域へ人材を」が数値として表れてきた。今後も、地域及び保護者、中学校等から意見を取り入れ、魅力ある、地域に愛される学校を目指したい。

## 6 次年度への課題・改善点

- (1) 生徒募集の強化
  - ア 広報活動の充実
  - イ 魅力ある楽しい学校生活の展開  
(在校生の指導充実により、生徒や保護者からの口コミでの情報拡散等)
  - ウ 部活動の強化  
(新校体育コース導入を考え、充実した、楽しい部活等の実践、強化)
  - エ 生徒指導の強化  
(整容、マナー指導等を強化し、南稜生のブランド化を推進し、イメージを一新)
- (2) 人権教育、適応指導及び特別支援教育の充実
  - ア 中途退学者をなくす取組み
  - イ 生徒理解研修の充実による情報共有
  - ウ 道徳教育を含め、年間をとおした計画的な人権教育の推進
- (3) わかる授業の展開
  - ア 「南稜スタンダード」を意識した授業の展開、改善(研究授業の実施)
  - イ ICTの積極的活用
  - ウ 生徒に達成感を感じさせる授業の展開
- (4) キャリア教育の充実(地域、中学校への周知)
  - ア 特色ある取り組みから求人への展開  
(ア) 知的財産教育等による儲かる農業の学習(知恵を形に、アイデアを財産に)  
(イ) SPHの取組み(南稜就農塾、学科の取組み、プロフェッショナルを地域へ)
  - イ 生徒の第一希望への合格率向上、広報(特に、公務員合格)
  - ウ 資格取得等教育プログラムの充実(課外等)